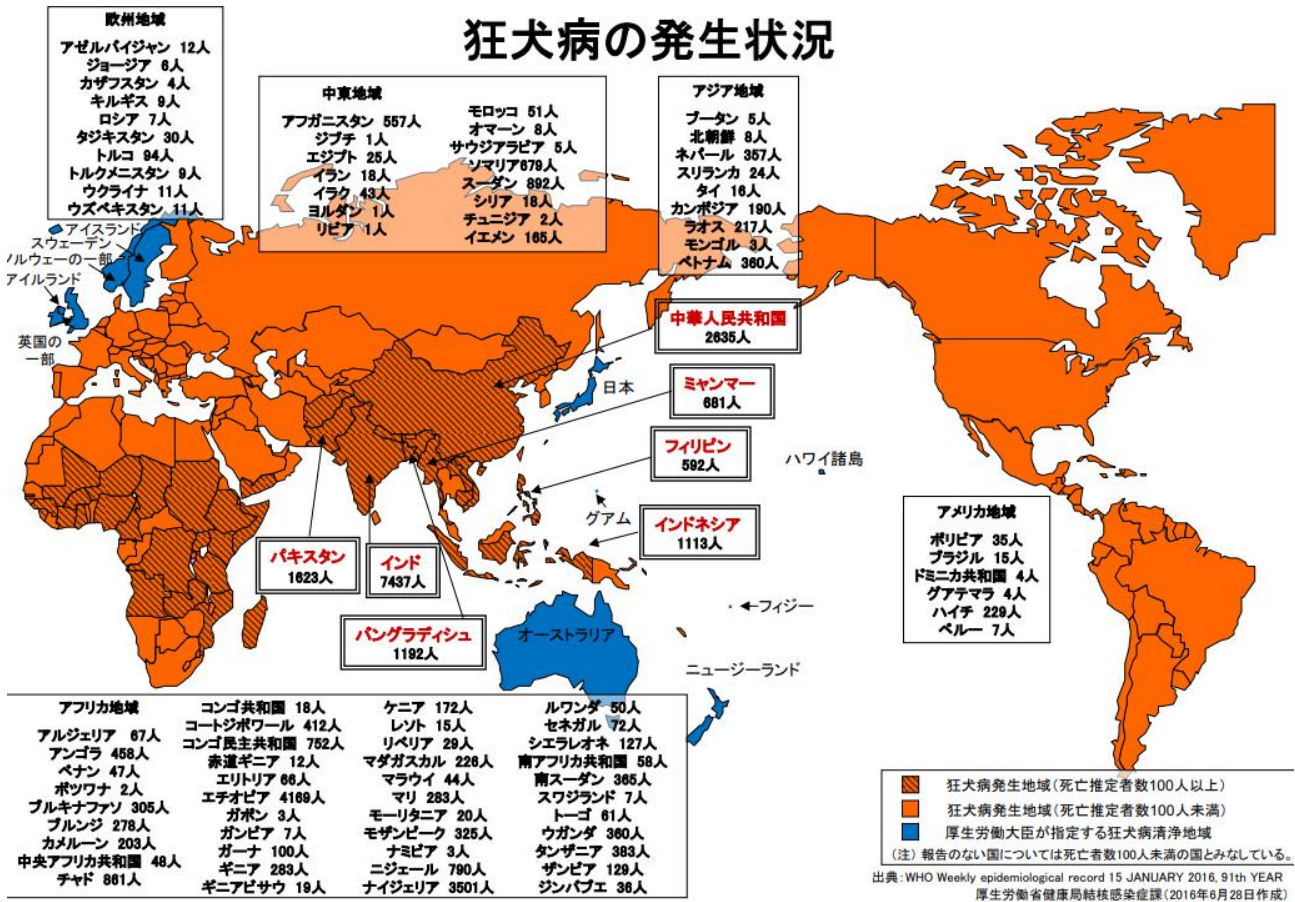


「犬や猿などの動物に咬まれた後の対応について（狂犬病ワクチン接種について）」

現在、日本国内では狂犬病の発生はありませんが、世界の多くの地域で狂犬病が存在しており、中には狂犬病の危険性が高い地域があります。そのため海外で犬や猿などの動物に咬まれた場合、狂犬病を発症する危険性があります。動物に咬まれた後の対処をきちんと行わずに、狂犬病が発症するとほぼ100%死亡してしまいます。2016年、厚生労働省は狂犬病の発生状況について下記のように報告しております。



動物にかまれた場合は、狂犬病ワクチン接種が必要になりますので（暴露後接種といいます）、下記のように対応しましょう。

1) 事前に予防接種をしていない場合（WHO方式）

咬まれた日（0日）	傷を水と石鹸でよく洗ってから病院を受診してください。 可能な限り咬まれたその日に受診するのが望ましいですが、病院までのアクセスが困難な場合、遅くとも5日以内には受診してください。 病院で、創部の処置、抗生剤投与、抗狂犬病ガンマグロブリン注射、狂犬病ワクチン1回目接種を行います。 10年以内に破傷風トキソイド含有ワクチンを接種していない人は、破傷風トキソイド投与も必要です（受傷後破傷風予防）。
-----------	--

3日後	狂犬病ワクチン2回目接種を行います。
7日後	狂犬病ワクチン3回目接種を行います。
14～28日後	狂犬病ワクチン4回目接種を行います。

※ワクチンスケジュール表記は、0,3,7,14-28日となります。

※日本の化血研の国産ワクチンを使用する場合は、0,3,7,14,30,90日となります。

2) 事前に予防接種をしている場合 (WHO 方式)

咬まれる前 (渡航前) に予防接種を行うことを暴露前接種と言います。

☆暴露前接種のスケジュール

0日	狂犬病ワクチン1回目接種を行います。
7日後	狂犬病ワクチン2回目接種を行います。

※動物を扱う人や研究者など危険性が高いと判断した場合は、0,7,28 (または21)日の3回接種が望ましいです。

※このスケジュールはWHOに認められている狂犬病ワクチンのみ対象となります。

☆暴露後接種のスケジュール (暴露前接種をしている場合)

咬まれた日 (0日)	<p>傷を水と石鹸でよく洗ってから病院を受診してください。</p> <p>可能な限り咬まれたその日に受診するのが望ましいですが、病院までのアクセスが困難な場合、遅くとも5日以内には受診してください。</p> <p>病院で、創部の処置、抗生剤投与、狂犬病ワクチン1回目接種を行います。</p> <p>10年以内に破傷風トキソイド含有ワクチンを接種していない人は、破傷風トキソイド投与も必要です (受傷後破傷風予防)。</p> <p>抗狂犬病ガンマグロブリン投与の必要はありません。</p>
3日後	狂犬病ワクチン2回目接種を行います。

☆暴露前接種を推奨する人

①病院から離れた地域に渡航する人 (病院までのアクセスが困難)

②動物を扱う人、研究者

③野犬、猿、コウモリなどの野生動物が多い地域に滞在する人

など、狂犬病の危険性が高い方は暴露前接種を推奨します。

3) 当院に暴露後接種で来院される方の特徴

① 動物に咬まれた地域としては、インド、中国、東南アジアなどのアジア地域が多いです。

② 暴露前接種をしていない人が多いです。

③ 日本に帰国してから初回接種をする人が多いです。

- ④ 渡航前に破傷風トキソイド含有ワクチン接種をしていない人が多く、受傷後の破傷風トキソイド接種も同時に必要になる人が多いです。